

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学 I	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>助産の理論領域における基礎科目として位置付ける必修科目である。助産師としての能力を育成するための幅広い分野応用できる知識・理解と関心・意欲を重視する。受講動機では、必須科目である100%、資格取得に必要33%、関心のある内容1名(6.7%)と回答している。</p> <p>4コマ目では、お産の歴史については、教科書以外の情報も利用しまとめ、全学生がプレゼンテーションで発表した。日本の助産やお産の文化について関心・意欲を深めることができたと思われる。</p> <p>学生の授業評価では、予習・復習については、30分以上の準備は4～5回が6名、ほとんどが複数回実施していたが全く実施していないものもあった。今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備はできるよう確認を行いながら実施した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>知識理解に関する成績では、71.9(±7.7)点であり、再試験対象は1名であった。到達目標について説明でき、そこから女性や家族の健康問題とケアについて助産師の役割が説明できる標準的レベルにほど到達していた。概ね80点以上の理想的レベルには15名中2名のみであり、広く応用できるまでには到達していなかった。</p> <p>目標別に見ると、お産の歴史についての自己学習・情報収集・プレゼンテーションでは、全員関心意欲がみられ、共有することができた。</p> <p>学生による授業評価においては、ほぼ全学生が知識、専門分野の課題や自己の判断力、プレゼンテーション技術等できたと評価していた。授業の質では、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では、平均値4.5と高得点を示している。「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」、「…学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」では各平均値4.3(中央値5.0)と評価が高かった。学習量では、レポート作成・プレゼンテーションについて明確にしたため、計画的に準備を行っていた。30分以上の準備は4～5回が6名、ほとんどが複数回実施していたが全く実施していないものもあった。個々の理解度や進捗状況を把握しながら行うようにしていきたい。情報利用では13名がシラバス記載を参考にしていた。図書館利用やインターネット検索を多くの学生が活用していた。昨年度課題としてあげたプレゼンテーションでの学習量や分析力・情報収集力に差がみられ部分では、時間を有効に利用し質疑応答に時間をとり関心意欲を引き出すことで評価点も上昇したと思われる。</p>					
* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は助産の理論領域における基礎科目として位置付けられ、専門科目を修得するための必修科目である。学習方法欄に示したが、母性看護学との重複があり、既習学習と関連付けて展開するため復習を行って臨むよう動機づけはできていたと思われる。知識理解については、筆記試験80%、レポート・発表で各10%で評価した。成績は、71.9(±7.7)で一定の成績を収めている。しかし、知識理解の評価点が低く、再試験となった学生もみられた。再試験にて再学習を行うことで全学生が到達度に達した。内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 知識・理解に関する達成度では、十分知識が得られていないものがあった。達成すべき目標が広範囲に及び時間的余裕がなかったが、講義の終了時に再度押さえる、次コマ時に確認する等丁寧に行っていた。関心意欲については、主体的に自己学習しプレゼンテーションを行うことで受講前動機では1名のみであったが「学びを深めたいという意欲を持つことができた」の評価に繋がった。これらから内容的には妥当であったと考える。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われるが、一部工夫も必要であり検討を行う。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達目標にあったDPを見直し中であり、達成度評価割合も検討していく。</p> <p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.5(中央値5.0)と高かった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」及び、「口頭・文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会がつけられていた」では、平均値各4.3(中央値5.0)であった。他の項目も3.9~4.1(各中央値4.0)であった。</p> <p>学生の意見として、「他の課題があり、時間がなかった」、「課題をやるので精一杯」、「その他の課題に追われていた」との意見があり、他の講義課題との調整が必要である。昨年度も同様の状況で一部整理をして臨んだが、より工夫が必要であると考え。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門科目の基礎的位置づけとしての基礎科目であり、基礎的知識の形成については概ね達成できた。しかし、標準レベルにとどまり、理想的レベルに達したものが15名中2名と少なかった。この課題については、後半の国試対策等で強化していきたい。</p> <p>今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備はできるよう確認を行いながら実施したことは評価できる。</p> <p>入学後すぐに開始する科目であり、学生個々の理解度を確認しながら行っていきたい。また、予習・復習が効果的にできるよう講義後に復習課題を意識的に提示するようにしたい。また、課題に追われてゆとりがない状況で授業中の効果的に目標達成できるよう、資料・説明のさらなる工夫を行っていく。到達目標にあったDPを見直し、達成度評価割合も検討していく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。また53%が「資格取得に必要である」と回答している。「関心のある内容である」が27%と低いことに関しては、助産別科での開講ということもあり、専門の科目ではないので、妥当な数値と評価できる。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。</p> <p>②栄養学科同様、スライド資料を作成し配布した。資料には板書を書き写すことのできるスペース等も設けた。座学だけではなく、調乳等の実習を講義の中に組み込むことで、母子の栄養学に少しでも興味を持ってもらうよう努力している。</p> <p>③学修準備性に関しては、60%の学生が予習・復習を一度もやってないと回答している。助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要がある。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果および実習時の課題から評価した。試験結果は15名の受講生中、A(秀)が13.3%、B(優)が46.7%と多く、C(良)33.0%と優の次に多かった、D(可)が6.7%で、不可の学生は0名であった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、60%に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、結果として本科目受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高だけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、60%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後は予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。予習課題の配布や復習テストの実施も検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生がほとんど居なかった。特に図書館の利用に関しては、指定図書を紹介など講義でおこなっているものの、書籍を使つての課題等は出題しておらず、図書館活用も視野に入れた課題設定をしていく必要がある。ただし、助産別科生に対し、栄養学分野のみでの課題設定は厳しいことも考えられるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要がある。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、60%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、上記記載のように(目標達成状況)、他の周産期ケア科目の中の課題の組み込みも検討する必要があると考えている(例:長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等)。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は87%と高かった。ただしシラバスを参考にした学生の40%だけが「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなければならないため、今後は、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	竹内玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学 I (妊娠期)	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は臨地実習を前に 短期間で集中して開講されるため、予め看護基礎教育(特に母性看護学)における知識や技術の見直しが必要である。そのため、開講前に母性看護の知識や技術の復習として周産期のまとめ学習や技術試験を行い開講にそなえた。</p> <p>②母性看護の臨床経験が乏しい学生が多いため、妊娠期にある女性をイメージしたうえで対象者の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的・体感的に深めることを目的に妊婦の疑似体験やDVD教材の活用、模擬助産師外来体験や技術体験などの演習を意識的に取り入れた。</p> <p>③他教科の課題の重複を配慮して、グループワークや個人ワークの時間を講義の中で確保し、図書館などの学内の教材を活用したり教員のアドバイスを受けやすい環境を整えた。</p> <p>④他科目との関連性を考慮して、知識や技術の積みかさねを意図して、時間割を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、模擬助産師外来技術試験・レポート・課題などの提出や自己学習40%、期末試験60% で実施した。最終的な成績の平均点は79点であり、再試験対象者は0名であった。なお、約半数の学生が理想的レベル(概ね80以上)に達したが、評価項目別にみると期末試験において60%以下の得点であった学生が2名いた。目標別にみるとDPすべてにおいて標準レベルに達していた。</p> <p>一方、学生アンケートから、目標の達成や的確な判断力を身につけたと実感できていたことにもかかわらず、3分の1の学生が復習に費やす時間がとれなかったこと、更に図書館利用状況も利用したものは3分の1程度であったという状況がみられた。このことから他の科目の課題が重なっていたことで知識理解を深める時間の確保が難しかったことが伺える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%「資格に必要である」40%であり、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、達成度事項評価では全員が「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短期間で集中的に行われる講義であり、かなりハードであるが学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきた。しかし、学生アンケートの自由記載には「時間がなかった」、「課題で精一杯だった」「他教科の課題で精一杯だった」という意見が聞かれており、さらに、学習評価からも「振り返りの時間が1回程度の学生は3分の1みられていた。授業の質評価ではすべての項目において全員が「そうだと思う」と回答しているが、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して構成や進め方を更に検討していく必要があると考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>到達度自己評では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答しているものの、評価項目の中には学生間の理解度の格差がみられている。このことから、短期間で集中的に行われる講義であり、かなりハードであるが学生全員が課題に取り組め知識理解力が定着できるよう、講義内容の見直しや予習・復習課題の内容や取り組み方法の提示や個別的な対応などで改善を図りたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、「関心のある科目である」35.7%と前者との数値に差がある。確かに資格取得には必要な科目であるが、学生の関心をひきつけられるよう具体的にイメージできる講義・演習内容の提示が必要である。</p> <p>・技術演習時は、演習内容を記した用紙を事前に配布し、自己学習をして臨むようにした。</p> <p>・昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があり、一部演習内容を修正し、ケアに関わる演習に変更した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
		やや達成された	達成された	やや達成された		達成された

<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76(±6.5)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達したが、理想的レベルに達した者は6名であった。</p> <p>・DP別にみると、知識・理解は81%、思考・判断は72%、技術・表現は74%の達成度であった。思考判断では、診断を行うためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえてアセスメントする能力が必要であり、その点は十分ではなかったと考える。事例を用い、包括的に捉えられるよう次年度にむけて検討していく。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では「技術表現」に関する平均値が高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解に比べ、思考判断に関する達成度が比較的低かった。学習の到達度評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」の平均値(4.3)と中央値(5.0)が高く、内容に関する学びの意識は高い。思考判断の達成度が比較的低い背景には、何を求めているのか学生に十分伝わっていない可能性があり、方法の工夫を考慮すべきであると考え。</p> <p>③まとめ 以上より、方法論に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値(3.9)が他の項目に比べ低かった。演習では学生の参加および意見のやりとりが可能であったが、講義ではじっくり時間をとって考えることはできなかった。本科目において、思考判断の達成度に関して課題もあることから、考えたり、まとめる時間を取り入れることを検討したい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。基礎的知識の習得については概ね達成できたが、思考判断については課題がある。授業過程では、事例の紹介については言及したが、自分の意見をまとめるなどじっくり考えるような時間がなかったと考える。課題や技術練習等で時間がないという学生の意見より、復習できる場面を提供する必要があると考える。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	竹内玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は臨地実習を前に 短期間で集中して開講されるため、予め看護基礎教育(特に母性看護学)における知識や技術の見直しが必要である。そのため、開講前に母性看護の知識や技術の復習として周産期のまとめ学習や技術試験を行い開講にそなえた。</p> <p>②母性看護の臨床経験が乏しい学生が多いため、産褥期にある女性をイメージしたうえで対象者の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を意識的に取り入れた。</p> <p>③他教科の課題の重複を配慮して、グループワークや個人ワークの時間を講義の中で確保し、図書館などの学内の教材を活用したり教員のアドバイスを受けやすい環境を整えた。</p> <p>④他科目との関連性を考慮して、知識や技術の積みかさねを意図して、時間割を工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、沐浴個人指導技術試験・レポート・課題などの提出や自己学習40%、期末試験60%で実施した。最終的な成績の平均点は83点であり、再試験対象者は0名であった。なお、70%以上の学生が理想的レベル(概ね80以上)に達した。目標別にみてもDPすべてにおいて標準レベルに達していた。一方、学生アンケートから、目標の達成や的確な判断力を身につけたと実感できていたこと、予習復習の時間も半数以上が確保できていた。さらに、約半数の学生が図書館の資料やインターネットを活用して知識理解を深め広げていた。このことから他の科目の課題が重なっていたものの、産褥期に関しては看護基礎教育の臨床実習で経験しており、妊娠期や分娩期に比べると知識理解力や思考判断力はある程度身につけていたため自己の課題が明確であり、本科目で得られた知識を更に深めるための時間を効果的に利用できていたのではないかとと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%「資格に必要である」40%であり、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、達成度事項評価では全員が「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短時間で集中的に行われる講義であり、かなりハードであるが学生が興味を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきたが、学生アンケートの自由記載には「時間がなかった」、「課題で精一杯だった」「他教科の課題で精一杯だった」という意見が聞かれており、まったく予習や復習ができていない学生が1-2名いた。それでも、図書館を活用したり予習復習課題に取り組んで臨んでいた学生がほぼ半数以上みられた。これらのことから、学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮して構成や進め方を検討していく必要があると考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>到達度自己評・達成度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短時間で集中的に行われる講義であり、かなりハードであるが学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、更なる工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、「関心のある科目である」33.3%と前者との数値に差がある。国家試験に関わる分野であり、資格取得には必要な科目であるが、学生の関心をひきつけられるよう具体的に講義・演習内容の提示が必要である。</p> <p>・技術演習時(医師が担当)は、全学生が経験できるよう物品の準備や配置、適宜指導が受けられるよう配慮している。</p> <p>・昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があり、ケアに関わる講義に変更した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は71(±6.8)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達したが、理想的レベルに達した者は2名とまだまだ限られていた。科目が「周産期のハイリスク」ということで、疾患についての講義がほとんどであり、正常からの逸脱(異常)について説明・判断ができることを目標としているため講義内容の専門性は高い。</p> <p>・DP1については、知識理解・思考判断は試験で評価し、68%の達成度であった。</p> <p>・学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生が40%、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は47%いた。正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であり、授業への取り組み方が課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では知識理解に関する平均値(4.2)が高い。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度は低かった。本科目は、正常逸脱に関する判断を求められるため内容としては妥当であると思われるが、内容を理解するための事前の学習や復習が必要であり、学習量に関して課題がみられた。</p> <p>③まとめ 以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値(3.7)が他の項目に比べ低 かった。技術演習では学生の参加および意見のやりとりが可能であったが、講義ではまとめたり、話し合うという時間はもてていない。疾患を持つ対象のケアにつ いては事例を用いるなど、考える時間をつくる必要である。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業過程では、ケアに関しては事例を紹介し、自分の意見をまとめるなど考えるような時間がなかったと考 える。課題等で時間がないという学生の意見より、授業の中で考える場面の提供について検討する。 また、正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であり、学習量の取り組み方が課題である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP1に掲げている国際化社会における母子保健向上に関する知識の修得についてはどの科目においても不足があった。今年度シラバス、授業計画の見直し検討を行い、実践活動の経験を持つ外部講師に依頼し「諸外国における女性への支援活動の実際」を新しく取り入れることとした。</p> <p>②達成度評価は知識理解は試験とし、レポートとプレゼンテーションによる評価も新しく追加した。</p> <p>③前期必須科目であり、シラバスに学生が達成すべき目標が広範囲のため、既習の母性看護(女性の身体のしくみ、ライフサイクル各期の看護)の復習を示し、予備知識や技能の欄に、助産の重要な専門科目であり、広い分野に応用できる内容であり、積極的な姿勢で取り組むよう授業の開始時に説明することとした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76(±9.0)点であり、再試対象は0名であった。標準的レベルの「女性や家族の健康問題とケアについて助産師の役割が説明できる。」は達成できたが、理想的レベルの「現代女性が抱える健康問題について深く理解でき説明できる。女性や家族の健康問題とケアについて説明でき、広く応用できる。」は、5名(33%)であった。到達度自己評価は「専門分野について、学びを深めたいという意識を持つことができた」の平均値4.0で、他の項目では、3.5～3.9(平均値各4.0)とやや低かった。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」、「説明は理解しやすかった」、「学生の質問を受け付け、それに答える機会がつけられていた」等の平均が4.1(中央値4.0)であったが、事例を取り上げて検討をする機会を作ったが、じっくり考えてもらう時間は十分にとることができなかった。復習の時間が他の科目より少なかった。レポート課題の一部が講義時期の都合で評価に間に合わず、次年度時期の検討事項となった。情報利用では、シラバスを73%活用していたが、レポートは自己のBBTを測定し、アセスメントする課題であったため、図書館利用やインターネット利用率は27%と低かった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 健やかな女性のライフサイクル支援する専門科目であり、必須科目である。受講動機でも「必須科目である」100%、「資格取得に必要」、「関心がある内容」の順であった。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 学生が達成すべき目標が広範囲のため、時間的余裕がなかったが、成績から見ると平均値は76(±9.0)点であり、ある程度理解ができていと思われる。しかし、到達度の自己評価はあまり高くはなかった。(平均値3.5点～4.0 中央値各4.0)助産別科のDP知識・理解の細項目には国際化社会における母子保健向上に関する知識の修得がある。昨年度まで国際化社会における母子保健活動について深めた講義ができていなかった。今年度授業計画の見直しを行い外部講師による「諸外国における女性への支援活動の実際」を取り入れた内容的には修正し妥当であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達目標にあったDP及び達成度評価割合も検討していく。国際化社会における母子保健向上に関する知識の修得について今年外部講師を招いて講義を行ったが、学生の関心のある内容であり「講師の話が面白く、わかりやすかった」と評価している。レポート課題の一部が講義時期の都合により調整できず、評価に間に合わず、次年度時期の検討事項とした。情報利用では、シラバスを73%活用していたが、レポートは自己のBBTを測定し、アセスメントする課題であったため、図書館利用やインターネット利用率は講義に関する予復習が主で27%と低かった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学生が達成すべき目標が広範囲であり、女性や家族の健康問題とケアについての助産師の役割が理解できる標準レベルは全員が達成していた。知識理解を試験とレポート評価で行ったが、効果的に目標達成できるよう、資料・説明のさらなる工夫を行っていく。今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備ができるよう確認を行いながら実施したことでレポート作成においても計画的に行うことができたと思われる。到達目標にあったDPを見直し、達成度評価割合も検討していく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	笹山 雪子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合看護学	1	前期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①昨年度は、助産の教員による講義が主であったが、看護理論と医療倫理に関してはより専門分野である看護学科の講師による講義とした。看護過程の展開については、事例を作成し看護理論を使って看護過程の展開を個別に指導体制をとり、最後に看護過程の展開の発表で共有するよう計画した。</p> <p>②入学時に「看護技術到達度調査」を行い、既習の学習内容や到達度について確認した。その結果をふまえて看護過程の授業計画を見直し、教員が個別指導する学生の負担を考えた。</p> <p>③総合看護学は看護学生で修得すべき内容の再確認の場でもある。今年度は既卒者2名と少なかったが、「教員の勧め」が動機となって4割が受講しており、「関心のある内容」で受講した学生が2名と少ないため、新卒者にも関心のある内容を取り入れた授業計画を立てる必要がある。助産の理論領域・実践領域を支える支援科目と位置づけられる選択科目であるが、15名全員が必須科目と捉えて履修している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は、全体で74.9(±5.9)であり、標準的レベルの医療倫理や看護倫理について理解し、説明ができる。看護過程の展開ができるでは、達成された。理想的レベルの現代社会が求める看護の機能や役割・倫理規定に基づいて看護過程の展開ができ、助産過程の展開へ繋げることができるでは、約半数が達成した。到達度評価は、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値は4.0で、その他の到達度は3点代であった。学習量の評価では、授業に参加するために1回30分程度の予復習をほぼ全員実施していた。情報利用では13名がシラバス記載を参考にし、1/3が図書を利用して授業準備をしていた。授業時間内に課題に取り組み、教員に個別指導を受ける時間を設けたため、事前準備や復習の時間がシラバス上より短縮している。しかし、学生の意見として「時間が足りなかった」、「課題だけで精一杯だった」、「その他の課題に追われていた」との意見があり、他科目の複数課題に取り組みながら行っている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「助産の実践領域」に位置づけられ、『専門科目』と『実習』を支える『支援科目』の1つである。別科の入学生の学修背景が多様であることをふまえると内容的には妥当であると考えられる。しかし、選択科目にも関わらず全学生が受講しており、新卒者にとっては2～3年前に受講した内容と重複するため「関心のある内容」とした受講動機が低い結果となっている。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識・理解に関する達成度では、医療倫理・看護理論の基礎知識に対する知識の評価は看護過程の展開を含め包括的に評価した。看護過程の展開については、アセスメント能力が一部低く、今後の指導課題である。昨年度の課題として看護過程の知識理解が不十分なまま助産学実習に入り、再学習となったケースがあった。今年度は看護過程の展開に力を入れ個別に関わる方法としたが、知識・理解に対しては到達度自己評価より「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」は平均が3.9、3.7となっているため内容的には妥当であったと考える。</p> <p>以上から、内容的には妥当であり問題は無いと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達目標にあったDPを見直し中であり、達成度評価割合も検討していく。 授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.3と高かった。「口頭・文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに応える機会がつけられていた」では、平均値各4.2であった。「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかであった」及び、「学習の範囲や課題が明らかであった」「説明が理解しやすかった」では平均3.9であった。</p> <p>看護過程の課題は個人ワークとしたが、学生の意見として、「他の課題があり、時間がなかった」、「課題をやるので精一杯」、「その他の課題に追われていた」との意見があり、他の講義課題との調整が必要であると考えます。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>選択科目で看護学の基礎的知識を再度押さえ、助産の理論領域と実践領域に繋げる科目であり、概ね達成できた。一部に標準レベルにとどまり、理想的レベルに達したものが15名中1名みられた。助産診断・ケアの展開でアセスメント能力をつけるよう記録の指導を通して取り組んでいきたい。 今年度シラバスの説明を丁寧に行い、計画的に学習準備ができるよう確認を行いながら実施したことは評価できる。 以上から、入学後すぐに開始する科目であり、学生個々の理解度を確認しながら行ったが予習・復習が効果的にできるよう課題を意識的に提示するようにしたい。また、課題に追われてゆとりがない状況で授業中の効果的に目標達成できるよう、資料・説明のさらなる工夫や、他の講義課題との調整を行っていく。到達目標にあったDPを見直し、達成度評価割合も検討していく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2015年度前期

学科	助産別科
氏名	竹内玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学実習	1	前期	必修	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実習の前に、教員間および各施設担当者との打ち合わせを行い、指導内容を共有したうえで臨地実習指導に臨んだ。 ②実習前2週間ほどを臨地実習のための知識や技術の見直し、指導案や助産計画を作成するなど実習準備の時間を設けた。 ③各教員は指導計画を立案し、実習指導に取り組んだ。実習中も学生の状況をふまえて各個人の指導方法について臨床指導者と意見交換を行い方法の共通理解に務め、個々の学生が効果的な実習を経験できるよう心がけた。 ④日々の記録に対しては、助産過程の理解・対象者に起こっている現象の根拠やメカニズムの理解・学生が解決方法を見出すことを意図してフィードバックを行い助産計画の方向性を示し、知識理解・思考判断の確認や強化を意識してかかわった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>評価は、独自に設けた評価表を用いた。その内訳は、知識理解・思考判断・技能表(現助産技術の習得および助産過程展開・健康教育の実施)80%、実習に対する意欲関心・態度20%である。最終的な成績の平均点は73点であった。なお、13%以上の学生が理想的レベル(概ね80以上)に達した。目標別にみてるDPすべてにおいて標準レベルに達していた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、既習の「助産の理論領域」の「基礎科目」と次の段階にある「助産の実践領域」のなかの「専門科目」に続く、「助産の実践領域」のなかの「実習」である。なお、「実習」のなかでは助産学実習の基礎に位置している。臨床実習では、既習科目で学んだ知識や技術をいかして、助産師としての知識や技術を深めさらに定着させること、そのほか助産師としても態度や姿勢を養うために、学生自身が積極的・自主的に取り組むことが求められる。4週間の実習に臨んだ学生たちは真面目に取り組む、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①臨床経験が乏しく、周産期にある女性に対するイメージが少ない学生が多いことから、臨床実習ではそのイメージを少しでも持てること、そして助産ケアにいかせることを意図して学内の講義に取り組んできた。しかし、指導者とともに実施する看護ケアであっても自分の判断に自信がもてず、間違いを恐れ意見を述べることも時間もかかるものも見られ、実習が滞ることもあった。慣れない環境のなかで、刻々と変化する対象者の状況を瞬時に判断し、必要な助産ケアを提供することは難しかったと考える。それでも、4週間の期間をとおして少しずつ理解を深め、根拠を踏まえてた技術を習得していくことができ、成長の跡がみられた。このことから、学生ができるだけ自信をもって自分で判断した意見を指導者へ述べるように教員は指導者とともに個別的な指導が必要であると考えている。また、実習を見据えて学内の講義計画を検討する必要もあると考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>ほとんどの学生は、臨床で様々な経験や対象者とのかかわりや指導者や教員の助言をとおして自ら学び・思考判断する能力が徐々に養われていった。それは評価結果からも伺える。今後も、学生個々の能力や学習状況をふまえ、指導者と協力しながら実習指導にかかわることの重要性を再認識した。</p>
------------------------------	---